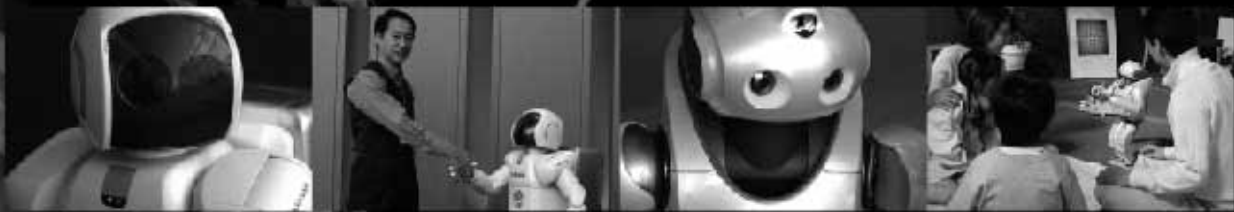




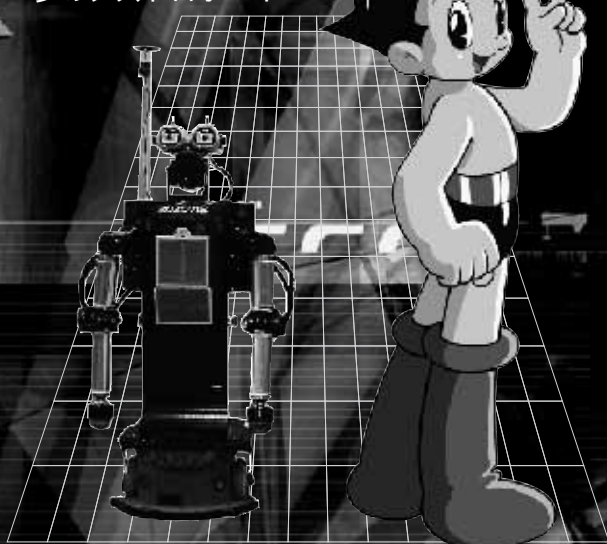
# 僕らの新しいパートナーとしてのヒト型ロボット

ASIMOやQRIOで一躍、注目されるようになったヒト型ロボット（ヒューマノイド）・・・その研究開発は、日本が世界をリードしていると言われています。それでは、その研究者達は、ヒト型ロボットにどんな夢を託しているのでしょうか・・・？



## ROBOT

～夢のアストロボーイへ～



Robovie- II

ATOM ©手塚プロダクション/ソニーピクチャーズエンタテインメント / 電通



WABIAN RV

DYNAMIC BRAIN

そもそも、「ROBOT」という言葉は、チェコの有名な作家カレル・チャペックが1920年に発表した戯曲、「R. U. R (ロッサム万能ロボット製造会社)」の中に出てきた造語です。人間のために働いてくれる便利な機械として製造されたのですが、最後は敵となって人類を滅ぼしてしまう物語です。欧米では、長い間、このチャペックの物語がロボットに対するイメージに強い影響を与えてきました。

しかし、日本では事情が違いました。

そう、1952年に発表された手塚治虫の「鉄腕アトム（アストロボーイ）」です。科学技術の粋を集めて誕生した最高のヒト型ロボットの姿が、誰にでも親しまれる可愛い子供のような姿をしていたことが、まずは革新的でした。そして、人間の友達としてアトムが大活躍するストーリーに、たくさんの人たちが未来への夢を膨らましたのでした。

いつか、鉄腕アトムの世界のように、ロボット達が私たちの社会や家庭の中でパートナーとして活躍する明るい未来を実現させる。そんなことを夢見て、多くの研究者達は、研究開発を進めているのです。

一方、脳科学や心理学などの基礎的な研究分野でも、ヒト型ロボットの活躍は始まっています。「ヒト型ロボット研究を通して、人間そのものを知る」・・・この魅力的なテーマに挑戦しているのも、世界最先端のロボット研究の取り組みの一つです。

この映画の中では、ASIMOやQRIOが登場し、人と見事な掛け合いをします。彼らは、台本通りの動きをしており、今の段階では、未来館のASIMOは展示説明をしていますが館内を自由には動けないし、QRIOも家庭でこんな風に暮らしてはいません。しかし、ヒト型ロボットが私たちの日常生活の中に溶け込み、パートナーとして活躍する未来は、すぐそこまで来ているに違いありません。

上映時間：36分 / 監督・脚本：豊川隆典 / 音楽：高橋康治  
制作年：2004年 / 配給：(株)D&Dピクチャーズ



開館時間 9:00～17:00  
休館日 月曜、祝日、年末年始  
観覧料

区分	金額	個人	団体 (20人以上)
展示室	おとな	400円	320円
	こども (高校生以下)	100円	80円
プラネタリウム	おとな	400円	320円
	こども (高校生以下)	200円	160円
全天周映画	おとな	400円	320円
	こども (高校生以下)	200円	160円
プラネタリウム + 全天周映画	おとな	600円	480円
	こども (高校生以下)	300円	240円

全天周映画上映開始時刻

火～金曜 14:40～  
土・日・春休み期間中 10:00～ 12:20～ 14:40～  
全天周映画休演日 2/8・9, 6/14・15

プラネタリウム上映開始時刻

火～金曜 15:50～  
土・日・春休み期間中 11:10～ 13:30～ 15:50～  
プラネタリウム休演日 2/8・9, 3/1～3  
6/14・15, 7/5～7

アクセス

- ・国道2号線 笹沖交差点から車で15分  
(古城池トンネルを抜けて最初の信号を左折)
- ・瀬戸中央自動車道 水島ICから車で10分  
(広江交差点で右折後、最初の信号を右折)

